

## スマホ 安く使うワザ

スマートフォンを安く使う選択肢が広がってきた。大手の携帯会社3社で従来型の携帯からスマホに買い替える際、壁になるのが月5千円以上の高い通信料金。すき間をつくように、「MVNO」  
☑️と呼ばれる通信会社が、価格を抑えたプランを充実させている。通信業界の「LCC」（格安航空会社）のような存在だ。

MVNOの安い通話プランを使うには、専用の「SIMカード」  
☑️☑️を購入し、対応した端末に差し込む。通信速度やデータ容量などに制限はあるが、料金は安いものでは携帯会社のプランの半額以下で、維持費の安さが魅力だ。  
「小売店でのSIMカード販売が大きく伸びている」。インターネット企業



### MVNO (エムパイエヌオー)

自前の基地局などは持たず、通信回線を携帯電話会社から借りて通信サービスを提供する通信会社。携帯だけでなく、カーナビなどさまざまな商品に通信機能を提供する。



### SIM(シム)カード

電話番号情報などが記録された小型のICカード。無線LAN通信などを除く、通常の通信にはSIMカードが必要。スマホの側面やカバーの下にはめ込まれている。

## 通信会社の専用カードで

アテイブ(EEJ)が18日開いた市場の説明会で、担当者が強調した。カードは、ネット通販が中心だったが、スーパーのイオンや、家電量販のビックカメラでも発売。消費者にグッと身近になってきた。

こうした格安サービスは、日本通信が2010年に始めた。12年にNECビッグロップ、NTTコムユニケーションズなど大手も相次いで参入。競争の激しさもあって、「制限」は徐々に取り払われている。

調査会社MM総研によると、主要なMVNO5社(大手携帯会社系は除く)の契約数は、12年度末で計約104万件(ネットワーク中継機器のルーターなども含む)。電波の有効活用や競争促進のため格安スマホを推している総務省の担当も「知らない人が多く、市場が拡大する余地は大きい」という。普及への課題は、カードを差し替えられる端末に限られることだ。契約者が他社に流出するのを防ぐため、携帯会社が差し替えられない設定にしてきた。ドコモの端末は大半が差し替え可能だが、他社ではできない端末がある。人気のiPhoneも日本では原則、差し替えができない。(高重治香)